

私の一冊

一般教育等 上田 一紀 先生

イーライ・パリサー著 井口耕二訳 『フィルターバブル:インターネットが隠していること』

小鹿図書館 007.3/P 23

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、出前や通信販売を利用する人が以前に比べて増えたように思います。スマートフォン等の端末とインターネット接続環境さえ整っていれば、ボタン 1 つで自宅に欲しいものを届けてくれるため非常に便利です。私も自粛中はよく通販を利用してショッピングをしています。私が ZOZOTOWN や楽天のヘビーユーザーであることに、毎回荷物を届けてくれる宅配員は気が付いているかもしれません。しかし Web 上では、宅配員でさえ知り得ない箱の中身(私の趣味嗜好)をまるで誰かが把握しているかのように、私だけをターゲットとした広告に狙い撃ちにされてしまいます。Instagram でも、画面下の虫眼鏡ボタンを押すと、あなたの好きな「映え」るポストが多く表示されませんか？Netflix でも、マッチ度の高い作品をお勧めされませんか？また、あなたがいつも使用している検索エンジンにおいても、あなたの検索や購買履歴の傾向からおすすめの結果が表示されていることを知っていますか……？

IT 企業によるこうしたお節介な戦略を、本書では、パーソナライゼーションと呼びます。加速度的に、私たちを取り巻く情報の量は増え続けており、膨大な情報にまみれるこの世界に疲弊している人も多いように思います。そんな中、巨大 IT 企業は、自分の見たい・知りたい・聞きたい情報だけに囲まれた、居心地の良い世界(パーソナライズされた世界)を私たちに提供してくれます。果たして彼らは、疲弊した私たちの救世主足り得るでしょうか。

本書は、IT 企業によるパーソナライゼーションが「私たち」のためではなく「広告」のために行われていることを明らかにした上で、いわゆる「楽園」のようなサイバースペース上の状態に警鐘を鳴らしています。タイトルにある「フィルターバブル」とは、IT 企業が作り出したフィルターにより、まるで「泡」(バブル)のなかに閉じ込められたように自分に都合の良い情報しか見えなくなることを意味します。本書では、このフィルターバブルの問題、そして同問題から生じる更なる問題を、様々な事例や議論を紹介しながら説明し、泡の中のあなたを泡の外の世界へと導くための予備的な知識を与えてくれます。

本書が扱う問題に興味を持ったならば、情報倫理、情報法・メディア法、情報科学、社会学等の学問領域の本も手に取ってみてはいかがでしょうか。泡の外の他者との出会いも素敵なものですよ。